



▲川口家の9人がそろうって

まう、そのうち喧嘩が始まる・・・などであつたようです。入学当初は本当に困り果てたようですが、毎日教えることと子どもから教わることを日案(指導案)に書き、外国語を教えるために参考となる書籍を読んだりしたようですが、最後は自分で苦しみながら、困りながら、言葉と動作を結びつけながら、範を示しながら根気よく何回も何回も繰り返し続けていくことが日本語教育の出発点であつたと私たちに話を

してくれました。また台湾の夏休みは五十日間あつたので毎日10名ずつ組にして登校させ、いろいろなことを一緒に楽しみました。五十音の言葉と片仮名、平仮名のカルタを作つてカルタ遊びをしたり、数字による算数の遊びをしたりなど一日中遊びの中で言葉をおぼえ、文字をおぼえ、数字をおぼえ、そして躰がだんだんと身につけてきました。野原にも出かけて、草花つみ、昆虫とり、いも掘り、かけくらべをし、一緒にお弁当を食べ、昼寝をしました。このように父から一年生担任の話を聞くたびに私は教師と生徒という関係を超えて、父はひとりの人間として体当たりになつて接し、正に心のふれあいを深めていたのだと思つています。

### 父の影響を受けて

私は昭和42年4月、習志野市立幼稚園(仲よし幼稚園)に勤務し社会人としての一步を踏み出しました。どうして幼稚園の先生になつたの?と聞かれます。父から幾度となく聞いた台湾での一年生担任の話を思い出したことと、これからは幼い時期の教育が大事

であるという父からの後押しが大きかつたのでしよう。そして未っ子で育つたせいかわや妹が欲しかつた私にとつて幼稚園での子どもたちの生活は最高の仕事でした。子どもは先生や大人の一手一投足に注目しています。子どもたちの大好きなごっこ遊びに表れています。A子ちゃんの家庭はお父さんが威張つているな? S男ちゃんの家庭はお母さんが強いのかな? など子どもたちの口調、イントネーション、会話などから家庭の様子が手に取るように分かるのです。勿論、家に帰つて子どもたちが遊んでいる幼稚園ごっこではありのままの私を模倣し表現しているのです。何とも面映い気持ちでした。子どもは模倣の天才です。だからこそ、子どもとの生活では言葉のみならず、身振り、手振り、表情など豊かに接し、言葉と動作(行動)を結びつけながら根気よく繰り返し示していかなければならぬと思つて実践しました。このことは父の実践から私が学んでいたのです。教育・学習の基本となることはいつの時代でも変わらない、万古不易であると痛感しました。



まつしば・ふみこ。1946年和歌山県湯浅生まれ。七人姉妹の七女。「へこたれず、共働き・共遊び」をモットーに20歳から60歳の定年まで習志野市立幼稚園や市役所に勤務。船橋市習志野台在住。

# 七つの娘

松柴文子



「七つの子」と聞くと野口雨情作詞、本居長世作曲で日本の童謡の中でもよく知られた歌、♪からす なぜなくのからすはやまに かわいい 七つの子があるからよくと口ずさみ、思い出すことでしょう。

七つの子には間違いないのですが、「からす」ではなく、私の父川口千之(かずゆき)〔1906(明治39)年6月生まれ〕と母川口巳代(みよ)〔1906(明治39)年5月生まれ〕との間に生まれた七人の子どものことなのです。昔は七人きょうだいといつてもさほど珍しいことではありませんが、七人とも全員女の子・・・つまり七つの娘のことなのです。

唯一男性は父一人であとは八人全員女、おまけに当時飼つていた猫のピッコも雌・・・。戦前まで父母と14歳の長女から3歳の六女までは台湾で生活をしていました。六人の姉たちは台湾生まれで七女の私だけが日本で生まれました。ですから、我が家にとつて台湾は第二の故郷、懐かしい心の故郷なのです。

### 父のこと

父は大正15年3月、台湾総督府台北

師範学校を卒業して台南州西螺公学校訓導を拝命して以来、昭和21年4月終戦により日本本土に引き揚げてくるまで20年間台湾の教育に専念し、未広公学校訓導、左鎮公学校長、虎尾郡視学、台南州視学などを歴任しました。当時、台湾人の子弟を教育する公学校では一年生の入学当初は台湾出身の先生が担当するのが習わしであつたようです。その理由としては、日本人教師は台湾人と言葉が通じないので、日常の会話が出来ない。躰をするのも日本語だけでは最初のうちは困難な面が多い、日常の生活様式や環境は日本人と台湾人とは多少の隔たりがあるということでした。が父は慣例をはねのけ全島に先がけて一年生の入学時から日本人教師による教育を実施し、その試みとして一年生を担当したのです。

台湾での日本語学習を実施するにあつては、父は多少台湾語も知つていましたが知らないふりをして、決して生徒の前では使わないことに終始しました。最初は蜂の巣をつついたようにけんけんごうごう、叱つても言葉が通じない。ところかまわず小便をしてし